令和5(2023)年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

教務部　2023年度重点目標		
項目１	目標	現在の到達度評価に関し、新しい学力観・学習観に基づいた授業編成や現在の生徒状況を踏まえて検討を進める。
	達成方法	①到達度評価の中での考査の位置付けについて各教科で検討した定期考査のあり方について、教務運営という立場で対応可能な状況を設定していく。また、生徒の状況を踏まえた定期考査実施ルールに関しても検討していく。
		②追認定試験を実施しない学年を中心に、生徒の評価に関して学年・教科と連携しながらシステムを見直していく。
項目２	目標	近年変化をしている本校の状況に合わせ、教務規定の改訂及び各種書式の整理を実施する。
	達成方法	①ここ数年で変更になった規定を教務規定として再整理することで、本校の規定を改めて確認する。
		②生徒・保護者の提出書類に関して、書式を整理するとともに、他の提出書類書類などと統合可能なものを検討する。
項目３	目標	校務におけるICTの利活用を引き続き推進していく。
	達成方法	①教務システムを始めとし、現在ICTを活用しているシステムに関して調整を続けていくとともに、自動採点システムなどの検討を進めていく。
		②電話対応で受け付けていた教育実習受付を始め、オンライン化可能なものを引き続き検討していく。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

進路部　2023年度重点目標		
項目１	目標	生徒が自ら学ぶ授業及び探究的な活動を意識した授業の実践
	達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。
		タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。
		授業の６要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。
項目２	目標	生徒の進路意識改革
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。
		生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。
		各種検定試験の積極受検を奨励する。
項目３	目標	中学の基礎基本事項の定着
	達成方法	朝のSHRの時間を有効利用し、基礎基本の定着を図る
		基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。
		進路チューター等を活用して、成績不振者の手当を徹底する。
項目４	目標	大学受験への支援態勢
	達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。
		大学入試に対応した講習を充実させる。
項目５	目標	教師の受験指導力アップ
	達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。
		大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

生徒部　2023年度重点目標		
項目１	目標	グローバル社会への対応力を養う。
	達成方法	①社会や世界に視野を広げ、異文化や多様性を理解し、共存できる能力と人間性を養う。
		②種々雑多な情報が配信される社会において、その成否を判断できる力を養うため、幅広い基本的知識の習得と探究的学びを深める。
項目２	目標	校訓「恥を知れ」を基本的理念として、正しい生活習慣を定着する。
	達成方法	①HR、各種集会等あらゆる機会を捉えて、挨拶・マナー・モラル並びにルールを遵守することの重要性を理解し、習慣として定着するよう指導する。
		②基本的生活習慣の定着を前提として、自主性を尊重し、自己肯定感を高めることによって、自ら主体的に行動する力を養う。
項目３	目標	豊かな人間性を養い、共感を得られる人間関係を構築できる人になる。
	達成方法	①学校生活における各場面において、他者に対する「思いやり」と「寛容」の心をもつ、心豊かな生徒を育てる
		②部活動を教科の学習だけでは得られない多様な学びの場と位置付け、「部活動に関わる活動方針」の趣旨を踏まえ、バランスのとれた活動を進める。
項目４	目標	安全・安心教育を徹底し、各種リスクの防止に努める。
	達成方法	①ネットに関わるリスク防止の教育をHR・生徒集会で周知すると共に、専門家によるレクチャーで徹底する。
		②「いじめ」の非社会性・犯罪性について理解を深めとともに、アンケート調査の実施など、早期発見に努め、適時的確な対応策を講じる。
		③生徒のストレス、不安感に対処するため、カウンセリングルームの活用、家庭との連携を強化する。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

入試広報部　2023年度重点目標		
項目１	目標	本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。
	達成方法	説明会に関して、参加対象に応じてオンサイト・オンラインを使い分け、より多くの受験生・保護者に本校の中身を伝える機会を設ける。
		教員全員による塾訪問を継続し、訪問のタイミングで伝えるべき内容を明確にする。
		生徒からなるAdmission Staffが、学校案内や説明会などに積極的に関わるようにし、生徒の良さを直接知ってもらう機会を増やす。
		合同相談会等で、学校案内だけでなく学校の様子をより具体的に伝えるリーフレットを作成、配布する。
項目２	目標	Webサイト、ネットを利用した情報発信を効果的使い、より多くの受験生とその保護者に学校を知ってもらう。
	達成方法	ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。
		ホームページ「妻中だより」を通じて、学校の取り組みを知ってもらう機会を増やす。
		SNSを利用した発信をより効果的に進める。
項目３	目標	海外帰国生およびGLC生の受験者増、入学者増を目指す。
	達成方法	海外在留中の受験者を対象としたオンライン入試を継続実施し、より柔軟な補習対応を図る。
		GLCにおいて、より幅広い帰国生層の受け入れ態勢や、GLCの教育実績を示すことで、入学者数増につなげる。
		国外の広報活動において、海外塾のネットワークの有効利用に努める。
項目４	目標	中学入試において、受験者増を目指し、定員確保を継続する。
	達成方法	２４年度における入試形態の変更を、本校のschool missionと合わせて伝え、受験者増、手続き率アップを図る。
		受験生とその保護者に対し、不安を与えないような情報発信をする。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

グローバル・センター 2023年度重点目標 Global Center – The Goals to achieve for 2023		
項目1	Goal 目標	スクールミッションの実現、SGHネットワーク、ユネスコスクールとしての取り組みを、Beyond School 活動と連動させ、さらに進める。
		To further enhance our educational activities (classes in curriculum and extracurricular projects) for global context to cultivate students' global citizenship and acquire intercultural competence and mindset for coexistence in global diversity.
	Strategy 達成方法	ユネスコ・スクール＋SGHネットワーク校として、国内外の様々な機関、学校、大学と協働し、様々なプログラム、コンテストに生徒と一緒に取り組む。具体的には、 Model UN, HLAB, Debate,TEDx, SGH Forum,FPT などのプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を校務運営会議を始め、TEAMSなどで、報告、共有する。参加生徒のフィードバックも共有して、成果物とする。
		外国語科、地歴公民社会科などを中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒をファシリティトする。特に、GLCの外国語教育、GIS、フロンティアプロジェクトを更に充実させ、生徒によるfeedback, 学んだことの言語化をはかり、成果を目に見える形にして、より一層の共有を進める。
		As a UNESCO School + SGH Network School, work with students on various programs and contests in collaboration with various domestic and international organizations, schools, and universities, including Model UN, HLAB, HEnDA, WISH, TEDx, SGH Forum, etc. We encourage students to participate in these various programs, and share their achievements via TEAMS, etc with all.
		To promote collaboration with the foreign language department, the social studies department, and to encourage students to participate in programs together. In particular, we will further enhance GLC's foreign language education, GIS, and Frontier Project Team. Along with that, their achievement and feedback by students will be promoted to make their achievements visible and shared even more.
項目2	Goal 目標	生徒の進路実現に資する - 日本の大学受験やカリキュラムが欧米型にシフトしていることを踏まる。留学やグローバル系、リベラルアーツ系、海外大への進学サポートの充実を図る。
		In order to help students realize global careers, we will promote more support for studying abroad and applying to universities in Japan and overseas in light of the shift in Japanese university entrance examinations toward a Western approach.
	Strategy 達成方法	海外大学やSGUに進学した卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネィティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。また、IELTS、TOFEL等のサポートもグローバルチューターを活用し、さらに進める。
		「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB]、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。
		Actively utilize alumni to share their experiences with current students. In addition, to collaborate with native English faculty to plan various international programs, and offer guidance and counseling for students who wish to study at domestic and foreign universities as well as study abroad counseling. Additionally, support for IELTS, TOFEL, etc. will be further promoted through the use of global tutors.
		By collaboration with Tobitate! Study Abroad JAPAN", "HLAB", "American Embassy", "British Council", "Australian State Governments", "French Embassy", "Colibri", etc., we will actively encourage students to take on the challenge of studying abroad and entering higher education programs, and will hold briefing sessions and debriefing sessions for these programs online.
項目3	Goal 目標	GLCや帰国生教育をさらに内外にアピールし、広報活動に繋がるような取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。
		Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities.
	Strategy 達成方法	編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。
		大妻女子大学、及び同国際センター、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。
		To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities.
		To Further promote collaboration with Otsuma Women's University, its International Center, the Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.